

～ タイムリーな情報を、いち早く皆様にお知らせします ～

◆「新時代のための経営」流動化の中での経営をどうするか

流動化の1つにTPPがあります。TPPの問題は何が起こるか今は未知ですが、類推はできます。基本は関税撤廃により自由貿易の流れの中でどう動いていくか、非常に大きな意味合いがあります。米や麦などの問題を気にしつつも、それ以上に生活の色々な面で本格的自由化の始まりを見るべきです。これにより様々なものが流動化し、その中での経営の仕方を考えなければいけません。

日越協働医療：2025年を過ぎると60歳以上が3分の1くらいになり、アジア全域が高齢化社会になります。なかでも日本は高齢化社会の先進国で、世界の中でも北欧よりも高齢化が進んでいます。ベトナムでは日本の高齢化社会を見習おうかという動きになっています。国防省の直轄病院である175病院では戦時病院から介護施設を含めた平時病院への切り替えにあたり、用地も予算も確保されています。しかし、高齢化対策用の絵が描けず、これからの研究課題です。

また、175病院の中にジャパンメディカルクリニックを造ることになり、そこには日本文化を体験・交流できる文化センターを併合したいという話が出ています。

これらの流れをベトナムから見て、日越の医療協働機関を創り医療のレベルアップを図ろうとしています。日本から見ると医療サービスの支援機構を創ることになります。

進まない日越融合化：しかし、175病院の工事に関しては日本との融合化が進みません。なぜかという、贈収賄の問題が引っかかるからです。社会主義国家のアンダーテーブルがあり、いくらトップが根絶を唱えてもゼロにはできず日本企業にとってはそれがつきまとうからやっかいです。日本企業が進出し、ローカル企業との取引が進むようルールを作らなければいけません。

◆ベトナムは贈り物の世界

ベトナムには富裕層が日本以上に居ます。その富裕層同士のお付き合いの中で子どもが誕生すると1年間毎月お祝いを持って行かないといけないそうです。贈り物として日本製のベビー用品は高くても需要があります。贈り物社会のベトナムでは、基本的に花の贈り物が多く、桁違いに売れています。至る所に花屋があります。ダラットの花農家は、御殿を建てているほどです。

◆TPP時代に生きる、生きる

「生きる」前に「生きる」事が出来なければなりません。TPPが始まると新興社会の物価や生活水準が良くなるとはいえ、日本人は新興社会の人々と同じ土俵で生活し生存競争していかなければなりません。人財力は、所属社会のパワー、所属組織のパワー、個人のパワーの合計です。今までは所属社会の差が日本人の優位性をもたらしてくれました。しかし、新興社会の人々と同じ会社で働くようになると、正味一人ひとりのパワーの差が出来不出来の差となります。この際、賃金の差がまだ残っていると、経済的意味は更に大きなものになります。TPPによって、2～3年後からこのように時代が変化します。

その変化は3つ挙げることができます。

- ①地域格差が小さくなる
売ることも買うことも均一化する。均一化する社会では、どの様な生活になるのだろうか。
- ②往来が自由になる
- ③労働生産性が世界的に向上し、サービス産業人口が中心の世界になる

◆霧研海外研修はシンガポールに決定

研修期間は2016年2月10日～14日、鹿児島以外から参加される方、大歓迎です。研修の目的は、シンガポールは“なぜ総合点世界1なのか”、参加企業の“未来をシンガポールで描く”ことになります。
※詳細はBSOまでお問い合わせ下さい。

◆「協働」の定義

共通の目的を実現するため関係者がそれぞれのもてる能力を最適な関係で発揮するグループ活動をいいます。この活動を実践するためには、参加する姿勢と参加の仕方によって成否が大きく違ってきます。

1.参加する姿勢

- ①実現する夢ロマン、理念の共有
- ②目的体系の共通理解
- ③全体考働計画の共有
- ④自責の仲間意識

2.参加の仕方

- ①関係者との相連報と即返事
- ②全体最適化視点
- ③問題の自責検討
- ④関係者への自責提案

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ

情報てんこもりは、弊社の協働活動(受託事業・企画事業・出版事業)のタイムリーな情報をいち早く多くの方々にご提供いただく為に発信しております。(お問い合わせはshienkikaku@bso.co.jpまで)